

水産物に混入していたオニジリスナコバンムシ (新称) (甲殻亜門・等脚目)

A mysterious record of *Acanthoserolis schythei* (Lütken, 1858) (Crustacea, Isopoda) found from a flatfish

株式会社水士舎 齋藤 暢宏 (Saito, Nobuhiro) 特定非営利活動法人アンダンテ21 佐々木 隆志 (Sasaki, Takashi)

はじめに

著者の一人佐々木が、スーパーマーケットの鮮魚部に勤める友人から、ソウハチ *Cleisthenes pinetorum* Jordan & Starks 1904の鰓についていた等脚類についての問い合わせを受けた。等脚類はスナコバンムシ科(コツプムシ亜目)の種であった。この科は独特な丸く扁平な体型が特徴であり、22属107種が知られ(Boyko *et al.*, 2008 onwards)、南半球、特に南極周辺に分布する(Sheppard, 1933)。北半球からも数種が知られるが、日本周辺の記録はない(蒲生, 1991; 1994; 布村・下村, 2015)。この個体の形態学的特徴を観察し、種同定を行った。

材料及び方法

等脚類は島根県益田市内のスーパーマーケットの鮮魚部にて、ソウハチ(全長30 cm)の無眼側の鰓腔から発見された。ソウハチは東シナ海で底曳網によって得られたもので、下関の魚市場に水揚げされ、2023年2月1日にスーパーマーケットに搬入された。漁獲から帰港、市場、店頭の流通経路で、採集から数日は経過していた魚体である。等脚類は99%エタノールで固定・保存した。計測部位および形態学的名称については下村・布村(2010)に従った。観察した標本は、京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所(SMBL)に保管・管理さ

れている。

結果及び考察

等脚目 Isopoda Latreille, 1816

コツプムシ亜目 Sphaeromatidea Wägele, 1989

スナコバンムシ科 Serolidae Dana, 1852

Acanthoserolis schythei (Lütken, 1858)

オニジリスナコバンムシ (和名新称)

観察材料 抱卵メス, SMBL-V0672, 体長24.2 mm, 東シナ海産ソウハチ *Cleisthenes pinetorum* Jordan & Starks 1904の無眼側鰓腔についていた。coll. 忍谷登。

記載 体型は円形で、背腹に著しく縦偏する；最大体幅は体長と等長。この個体は、体表の色艶がよく、一見新鮮な印象であったが、実際には痛みがあり、以下の部位は欠損していた：右第1触角、左右第2触角鞭部、右第5胸節・左右第6胸節後側隅拡張部、右第3・第5・第7胸脚、左第1胸脚腕節-指節・第6胸脚座節-指節、右尾肢、左尾肢外肢。

頭部は長方形で横長、第1胸節に深く陥入する；頭部前縁中央は大きく凹むが、中央に小さな棘状突起をもち、両隅も小さく尖る；眼はソラマメ様で大きい。第1触角は柄部4節、鞭部19節(おそらくこの先の節は欠損)で、第1胸節後縁を越える。

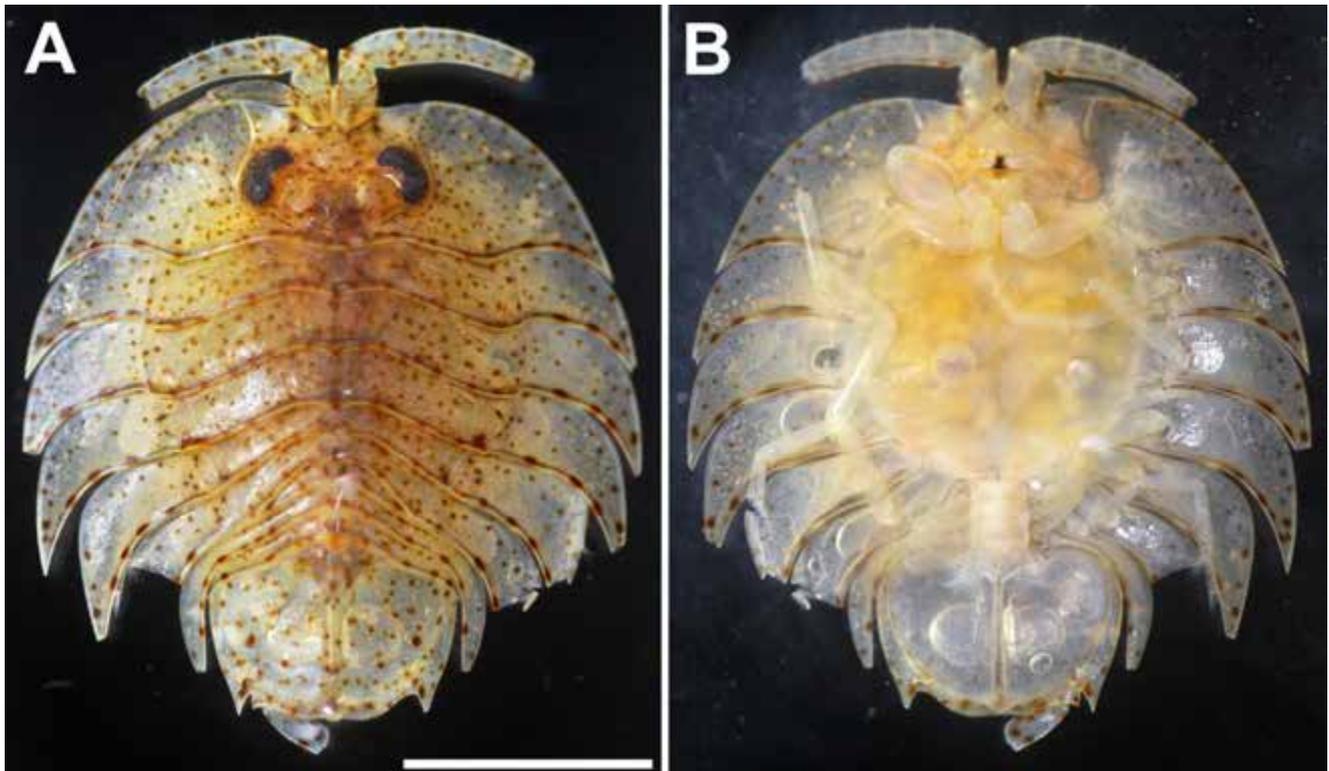


図1 オニジリスナコバンムシ *Acanthoserolis schythei* (Lütken, 1858), 抱卵メス, SMBL-V0672, 体長24.2 mm, 東シナ海産ソウハチ *Cleisthenes pinetorum* Jordan & Starks 1904の鰓についていた。A, 背面図; B, 腹面図。スケールバー=10 mm。

胸部は第1胸節が最大だが、正中線上の長さは、頭部が陥入するため最小；第2-第4胸節は等長；第5-第6胸節は短く、第4胸節の半分程度；第7胸節は腹面に胸脚を備えるが、背板は退化。第2-第4胸節の底板は胸部と縫合線で区別できるが、第5-第6胸節は完全に癒合する。各胸節側縁（含む底板）後端は鋭く尖り、特に第4-第6胸節はカマ様に体後方に大きく反り出す。第1胸節後縁は滑らか、第2-第6胸節後縁中央は棘状に張り出すが瘤にはならない。第1胸脚は亜鋏脚を形成し、把握的；第2-第7胸脚は細長く、歩行的。

腹部は3節からなり、各ほぼ等長；後縁中央は小さな棘を形成。腹節幅は第1腹節が最小；第2腹節側縁後隅は体後方に大きく張り出し、腹尾節中央を越えるが、両側とも先端が欠損；第3腹節側縁後隅はわずかに後方に尖る程度。第1-第3腹肢は二又で遊泳用；第4-第5腹肢は大きく拡張し、蓋板状で、腹尾節腹面を覆う。腹尾節は横長の六角形で、幅は長さの1.4倍、側縁後隅は棘状に大きく突出する。尾肢内肢の外縁は直線的、内縁は丸い；外縁先端は欠損する。

分布 南大西洋のフォークランド諸島周辺から記録があり、この海域でもっとも多く出現する種の一つである (Sheppard, 1933)。

備考 得られた等脚類は Sheppard (1933) の *Acanthoserolis schythei* (Lütken, 1858) (*Serolis* 属として) の記載及び図に一致した。*Acanthoserolis* 属にはほかに *A. polaris* (Richardson, 1911) が知られるが、本種は、第6胸節後側隅と第2腹節後側隅がともに腹尾節後縁に達する (*A. polaris* では第2腹節後側隅が腹尾節中央を越え、第6胸節後側隅は第2腹節後側隅に達しない)；胸節及び腹節の後縁中央に浅い突起をもつ (*A. polaris* は発達した瘤状突起となる)；尾肢内肢外縁は直線的で、後隅は尖る (*A. polaris* では内肢内外縁は丸い) 等の違いによって区別される (Sheppard, 1933; Moreira, 1971)。本個体は第6胸節後側隅拡張部が破損して長さはわからず、尾肢内肢外縁末端が破損して形状が不明であるが、胸節及び腹節後縁中央の突起は浅く、尾肢内肢外縁は直線的であった。本種には和名がないため、腹尾節側縁後隅の棘を鬼のツノに見立て、標準和名「オニジリスナコバンムシ」を提唱する。

今回、オニジリスナコバンムシが東シナ海由来の漁獲物に混入して発見されたが、500円硬貨大の甲殻類がこれまで生息海

域から発見されてこなかったとは考えにくい。本種の既知の分布域は、南大西洋の寒帯域であるため (Sheppard, 1933)、これはおそらく、ソウハチが水揚げから店頭へ搬送される過程で、輸入水産物に混入していた本個体と接触し、鰓腔に入り込んだのではないかと推察される。なお、スナコバンムシ科等脚類は自由生活性の底生動物である。今回魚類の鰓腔から得られたが、寄生種ではないので、たまたま鰓に潜り込んだものと思われる。

謝辞

本稿を草するにあたり、貴重な標本を提供された、忍谷登氏に記して謝意を表します。

引用文献

- Boyko, C.B., Bruce, N.L., Hadfield, K.A., Merrin, K.L., Ota, Y., Poore, G.C.B., Taiti, S. (Eds), 2008 onwards. World Marine, Freshwater and Terrestrial Isopod Crustaceans database. Serolidae Dana, 1852. Accessed through: World Register of Marine Species at: <https://www.marinespecies.org/aphia.php?p=taxdetails&id=118276> on 2023-05-16
- 蒲生重男, 1991. 日本南極観測隊によって採集されたセロリス科 Serolidae の等脚類 (甲殻綱, 等脚目, 有扇亜目) の4種類について. 横浜国立大学理科紀要. 第二類, 生物学・地学, 38: 1-21.
- 蒲生重男, 1994. 南極海産オナガスナコバンムシ (新称) *Serolis (Ceratoserolis) meridionalis* Vanhöffen, 1914. 海洋と生物, 95: 表紙+表紙裏.
- Moreira, P.S., 1971. Species of *Serolis* (Isopoda, Flabellifera) from southern Brazil. Boletim do Instituto Oceanográfico, Sao Paulo, 20: 85-144.
- 布村 昇・下村通誉, 2015. 日本産等脚目甲殻類の分類 (35) コツプムシ亜目. 海洋と生物, 220: 517-522.
- Sheppard, E.M., 1933. Isopoda Crustacea Part I. The family Serolidae. Discovery Reports, 7: 253-362, pl 16.
- 下村通誉・布村 昇, 2010. 日本産等脚目甲殻類の分類 (1). 海洋と生物, 186: 78-82.

E-mail (齋藤) : nsaitoh@suidosha.co.jp

E-mail (佐々木) : andante2100@gmail.com